

第3分科会 コメント一覧

テーマ：河川改修等（災害復旧等）における工夫事例

No.	発表題名	コメント	コメント	コメント	総評
1	荒瀬川の改良復旧における工夫について	災害復旧助成事業で取り組むべき多自然川づくりの基本的な考え方に沿った工夫が検討されています。災害復旧により、どういった河川環境を回復・創出したいのかが明確になるとさらに良かったです。	被災からの迅速な復旧が求められるなか、多自然川づくりアドバイザー制度を活用し、様々な工夫がなされた素晴らしい事例と感じました。今後事業が進み、思い描いた河川環境になったのか結果報告を期待します	災害復旧助成事業の緊迫した状況の中で、アドバイザーからの指摘及び、美山河に記載されている技術を適切に活用して川づくりを進めており、着実な事例と考えられる。施工後の状況推移の把握にも取り組んで頂けると、多くの地域に参考になると考えられる。	多自然川づくりアドバイザー制度を活用し、そのアドバイスを活かしながら多自然川づくりを実施した好事例。環境保全だけでなく、超過洪水の検討など治水面でも工夫がみられる。設計段階であるので、ぜひ施工後についても報告してほしい。
2	自然環境に配慮した改良復旧事業の取組について	水際部への寄せ石と岩盤の掘削による遡上を可能とする取り組みは素晴らしいと思いました。10年後の状況を確認していることも大事なことです。流路に巨石を残すことも良い取り組みですが、流出してしまったことを踏まえ、今後、サイズや置き方の考える材料にもらうことが大事です（他の現場での参考として）。ランダムに配置することでも良いかもしれませんが、災害前の状況を参考にしても良かったのではないのでしょうか。	施工から10年後の評価として、狙いどおりの成果が出たことや、そうでないものが評価されており他の参考となる。自然の地形を利用した堰の改築は特に素晴らしい事例である。	露出した岩盤を掘削して魚道として機能させるなど、独自の工夫が優れている。10年後に滞筋や水際などの状況をしっかりとモニタリングしており、各取り組み要素に対する応答や効果が分かりやすく、他事例の参考になる。	多自然川づくりアドバイザーの意見を参考に多自然川づくりを実施した事例。施工後10年後の検証を実施している点が素晴らしい。現地のあり材（石礫など）を活用し、貴重種（イシドジョウ）の保全にも配慮し生態に合わせた空隙を作るなど、丁寧に施工している。天然岩を利用した魚道の整備事例としても秀逸と思われる。
3	桂川の環境復元に向けた取り組み～タナゴ類・二枚貝類に配慮した川づくり～	絶滅危惧IA類のセボシタピラと二枚貝をセットで考えていることに加え、復旧の際に、ワンドやたまり、パーブエ、八の字堰など様々な工夫を施していることは素晴らしいと思いました。施工後に、セボシタピラが「確認」できたことは大事ですが、施工により分布が拡大した、個体数が増えた、となるように、引き続きモニタリングと順応的管理をお願いします。	多自然川づくりアドバイザーだけでなく、地域の学資者と一体となって桂川のかかわづくりを考えている。生物調査結果等でもネイチャーポジティブの兆しが確認されるなど好事例として全国の参考となる。	地域の大学・学識者等と密接に連携して、河道整正・生態環境復元を実施した好事例。大規模な災害からの復旧に関する氾濫原環境の復元として、現在のところ効果が発揮されており、今後の継続したモニタリングに注目したい。	タナゴ類の保全を軸に、多自然川づくりアドバイザーだけでなく、地元大学との連携を行い、ワンドなどの生息場づくり、施工時の細やかな工夫など、実に丁寧に多自然川づくりを実施している。大学と連携したモニタリングで効果を科学的に示すなど、災害復旧を通じて以前より環境を改善、ネイチャーポジティブを実現した全国の参考となる好事例である。
4	高崎川における多自然川づくりの工夫について	地域を巻き込んだ活動はとても大事なことで、県や市の方々の熱心な様子を伺うことができました。緩傾斜覆土を実施していることも良い取組みでした。落差工での対策は、まだまだ工夫することで改善できる可能性があるかと思いますが、活動すること自体に価値があり、この場所だけでなく県や市全域に展開されることを期待します。	地元の小学生等流域全体のあらゆる関係者と協働してモニタリング調査を行なうなどして、地域の環境意識を高めることは素晴らしい取り組みです。このような取り組みを継続・発展させて欲しいです。	床止めの連続性確保に加えて、構造物下流の河道の状況（瀬・淵）について、一体のものとして地域の関係者でモニタリングし効果の発揮状況を共有している点が評価できる。	河川管理施設である床止めの更新時を活用してネイチャーポジティブを実現した事例として、今後各地で実施されるインフラ更新時の参考となる好事例。全断面魚道だけでなく、切欠きや端部の流速を遅くするなど、多様な生物が遡上できるように工夫。水産や自然部局など県内外の組織との連携や本施設を活用した環境教育の取組みなど、トータルな多自然川づくりが実践できていて秀逸。スライドから情熱と楽しんでいる様子が伝わって来る。
5	鳥屋野潟の豊かな自然環境を保全した湖岸堤整備の実施	新潟県付近でのみ生息するエチゴモグラに注目し、堤防に必要な断面に覆土厚を加えたことはとても良い工夫だと思いました。ハクチョウのことを考えた工事時間の短縮など、引き続き、丁寧な取組みをお願いします。	エチゴモグラの保全として、堤防定規外に厚く覆土する取り組みは良い事例。引き続き環境保全対策を行ないながら事業を進めてほしい。	流域総合水管理の中で、湖岸堤の整備に対して、地域と連携して環境保全に力を入れて取り組んだ事例と考えている。流域全体で貯留を含めて取り組む際に、非常に参考になる例と考えられる。	新潟市街に近い鳥屋野潟での多自然湖岸整備の事例。自然環境と生活環境の双方に配慮した工夫がみられ、ハクチョウの生息や水質にも配慮した施工上の工夫もみられる。堤防定規の外側にモグラを保全する覆土の施工は全国初ではないか。利用面での工夫についてももっと知りたい。
6	オジロワシに配慮した人工代替巣設置の取組とその効果に関する検証	人工代替巣での繁殖成功事例として国内初の報告となったのは素晴らしいと思います。この知見を活用して、オジロワシが工事によって減る（その地域からいなくなる）ことがないようにお願いします。工事のスケジュールとオジロワシが確認されたタイミングの対応がわかりませんが、今後、オジロワシの自然巣がなくても、行動に影響を及ぼす可能性が懸念されるのであれば、人工代替巣を先んじて設置することも大事な取組みではないかと思いました。	希少生物のオジロワシの繁殖成功は素晴らしい事例。人工代替巣を利用した繁殖成功により工事中断の範囲が大幅に減るなど工事面の成果もある好事例。	シンボル種である希少生物（オジロワシ）の繁殖環境保全と大規模事業の実施を、粘り強く人工代替巣の実証を続けることで実現につなげている好事例。流域総合水管理の中で遊水地設置は各地で実施される傾向であり、先行例として非常に有意義。	希少生物であるオジロワシの保全を粘り強く人工代替巣により国内で初めて成功させた素晴らしい事例。しかもこの成功により工事の施工を容易にし、コスト削減につなげているところが環境保全とコスト削減の両立事例として大変興味深い。代表事例を二つ選べるのであれば、ぜひ皆さんに紹介したい事例。
7	正法寺川流域水管理行動計画について	潮止堰は単なる落差をもたらすだけではなく、塩分濃度の急変点となります。こういった環境の急変をもたらす場所であることを踏まえた魚道の整備が行われると、さらに良い取組みになると思います。	水質改善の導水事業、学校などにおける水教育、魚道の設置による生態系への配慮など様々な取り組みが実施されている。目標とする将来像の実現にむけて問題点を整理し取り組んでほしい。	清流ルネッサンスⅡから引き続き実施している長い歴史を継続できていることと、水量・水質・教育・連続性という様々な観点で地域の河と向き合っている姿勢に好感が持てる。	水質改善を目的とした清流ルネッサンスを引き継いでおり、都市河川の水質浄化、生態系ネットワーク回復、環境教育などを幅広く実施。導水量の減少によりBODが上昇しているが、そのあたりの背景や今後の対策についても知りたい。